

全郵政との合併へ 最右派が命脈握る

全通38回全国大会のてん末

全通三千八回大会は、「五九・二」総括と深夜勤問題を一天争点に開催され、森原一郎が辞めた。新委員長となつた河須崎は、省と最も連携している中田本部の前委員長であり、全通内閣が登場した。森原は就任卓除く五役全員が改選され、中堅も六人が辞めた。

郵政では、副委員長一人を新委員長としている中事問題では、副委員長一人を倍増しながら展開されている。今秋期を重要な正念場として、左派の飛躍が急務である。

郵政であり、全斗煥軍政を支える社会的支柱の役割を果たしてい

る反動的労働組合である。その代

表を全通と全電通がそろつて今年

の大会に招待したことは、労働運動において「日韓新時代」に踏み

出すると共に、官公労の労戦統一を

更に「歩寄体制」に進めるものであ

る。また九月全斗煥来日への「ツ

トボシ」をすみじよによって日帝

中曾根と会見し、奉仕する全く

とした上で、本部が選択と対応

の代議員だけだった。他の多くの

議員だけである。しかし一方で、

山口市で第二十回全国大会を開催

したが、こちらも「五九・二」と

ある。

「五九・二」総括では近畿から

人事を悉くおいて、「荒れたり大

きながり、一方で、マスコミ

も奮闘したことは避けられないと見る。河須崎は、先の背景を踏

らねることだった。モノアーネー

の解放闘争への無慈悲なナショナル

の政治上の代理人であることは

大統領候補にモノアーネーを擁立

し、フェラーラ・コンビの下

の政治上の代理人であることは

大統領候補にモノアーネーを擁立

</div

